

サッカー
全国高校選手権

徳島市立 初戦突破

PK戦で帝京長岡下す

冷静な判断 同点弾導く

緊張するP.R戦で、徳島市立の選手は落ち着いていた。誰一人として外すことなく、5人目のエースMF都を迎えた。「白分がチームを勝たせる」。右足から放たれたボールがネットを揺らして勝利が決まると、イレブンには歓喜した。

両チームとも無得点で折り返し、後半4分に徳島市立は1点を失った。課題の立ち上がりでの失点で嫌な空気が流れた。

しかし「選手がより前に出るきっかけになった」と河野監督。パス回しのテンポが上がり、2分後、右サイドからFW小延が本田とのワンツードでゴール前、トラップが乱れた小延は「パスに切り替えた」。瞬時の冷静な判断で、郡の同点弾を導いた。

「最低限の仕事ができてよかった」と郡。プロ選手になるのが将来の夢で、徳島ヴォルティスジュニアユース時代はバスで高校を生かすスタイルに特化していたが、高入学後は「アビリティを上げるために、得点力が必要」とゴールを意識するようになった。練習時から常に位置取りを考え、シュートの精度を高めてきたことが高校最後の大会で生きた。

3年ぶりの1勝に、郡は「守備陣が体を張って守つてくれたおかげ」とチーム一丸での勝利を強調。さらに「次は前半からしっかり得点する」と自らのゴールで流れを呼び込むことを誓っていた。（藤島慶佑）

帝京長岡対徳島市立後半、競り合う徳島市立の郡⑤と帝京長岡の安井―浦和駒場